



令和8年度 学校評価総括表

(徳島県立板野支援学校)



重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
 (1)安心安全な学校 づくり	 (生徒指導課) ・安全教育(通学・ス クールバス等)や生 徒指導・生活指導の 質的推進	 ①防災・防犯訓練(捜索訓練・不審者対 応訓練等)の実施、教職員の危機管理 意識の向上を図る。 ②スクールバス運営委員会を年間2回以 上実施し、安全・安心なスクールバスの 運行に向けて改善する。 ③自転車通学生や公共交通機関利用生 に対し、交通安全指導を実施する。 活動計画 ①ー1 各学部に応じたマニュアルを作成し、 全教職員参加の対応訓練を実施する。 ①ー2 訓練後にアンケートを実施し改善点 を共有する。 ②ー1 事故・災害時の対応についてスクール バス運営委員会で確認と共有を行う。 ②ー2 共有した情報を参考に、災害時の マニュアルの見直しを行う。 ③ー1 自転車通学生を対象に毎月、自転車 点検を実施し、ヘルメット着用を含めた安 全指導を行う。 ③ー2 公共交通機関利用生に対し、登下校 の安全な利用方法やマナーについて指導 を行う。		 (評定) (所見)		



令和8年度 学校評価総括表

(徳島県立板野支援学校)



重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
 (1) 安心安全な学校づくり	 (寄宿舎) 安全教育(通学・スクールバス等)や生徒指導・生活指導の質的推進	 ①各学年の実態および教育的ニーズに応じた生活プロジェクトを、年間1回以上行う。 ②災害時に備え、舎生や指導員の防災意識や防災スキルを高める。 活動計画 ①-1 6月から12月までの期間に、年1回以上、実施・評価する。 ①-2 担任が作成した計画案を、寄宿舎指導員間で1回以上回覧し、内容の検討および見直しを図る。 ①-3 実施内容および評価については、各務部会で情報共有し、今後の生活支援に活かせるよう改善を図る。 ②-1 防災リュックの中身を、舎生と一緒に学期に1回確認する。 ②-2 防災係を中心に最低限必要な防災用品リストを作成し標準装備できるようにする。 ②-3 個別に必要な防災グッズを基本のリストに加え、寄宿舎指導員間で情報共有する。 ②-4 不足しているものは、生活プロジェクト等を活用し舎生と一緒に準備する。		 (評定) (所見)		



令和8年度 学校評価総括表

(徳島県立板野支援学校)



重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
 (2)児童生徒に応じた 教育活動の充実	 (情報課) ・発達段階に応じた デジタル教育や 図書教育の 質的推進	 ・年間に6回以上、教職員対象に デジタルツールについて研修等 の機会を設定し、デジタルツール を使った学習の指導力向上を図る。		 (評定) (所見)		
		活動計画				
		①ー1 年間3回程度、職員会議等の 終了後に10分程度の研修を行う 機会を設ける。				
		①ー2 年間3回程度、デジタル ツールを使った授業等の情報交換会を 実施する。				
		①ー3 情報課課会において、デジタル ツールを活用し、仕事の効率化を図る。				



令和8年度 学校評価総括表

(徳島県立板野支援学校)



重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
 (2) 児童生徒に応じた 教育活動の充実	 (渉外図書課) 発達段階に応じたデジ タル教育や図書教育の 質的推進	 ② 図書室利用における、児童生徒の図書貸 出や貸出冊数が、月60冊以上になることが、 年間6ヶ月を超える。 活動計画 ①ー1 新着図書を活用する場として、図書便 りを発行し、図書への動機・関心、読書への 意欲を高めるとともに、図書資料などを整備 し、図書室を利用しやすい環境作りを行う。 ①ー2 ICT機材ボランティアの方との連携とし て、中学生と小学生が話し合いICTお話を 実施し、視野を広げ、読書活動の推進を図る。		 (評定) (所見)		



令和8年度 学校評価総括表

(徳島県立板野支援学校)



重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
 (3)保護者や地域、関係機関等と連携した教育の推進	 (特別活動課) ・地域と学校との交流や学校行事(体育の日、文化の日)の質的推進	 ①近隣校と年齢2回以上の交流及び共同学習を実施する。 ②行事後のアンケートで、保護者及び教員の80%以上から「主体的にできた」との肯定的な評価を得ることができる。		 (評定) (所見)		
		活動計画 ①－1 近隣校と対面で打ち合わせを行い、ねらいや活動内容の共通理解を図る。 ①－2 単に「教える、教えられる」ではなく、共通の目標をもつ対等な関係を築く。 ②－1 児童生徒数の増加や場所の制約を考え、参加人数を適切に調整する。 ②－2 一人ひとりに応じたルールや参加形態を柔軟に検討し、「全員参加」を目指す。 ②－3 行事後にアンケートを実施し、意見を集約して次年度の評価に活かす。				